

明治大学創立者 岸本辰雄展

会 期 2004（平成16）年5月14日（金）～27日（木）
A.M.9:00～P.M.6:00 ただし火曜日休館
会 場 鳥取市文化センター

ごあいさつ

このたび明治大学は鳥取市と共催により、鳥取の生んだ岸本辰雄先生の展示を行うこととなりました。こうした催しは、鳥取、明治大学双方にとっても、初めてのことと思われまます。

岸本辰雄先生は、1851（嘉永4）年11月に鳥取藩に生まれ、やがて藩の選抜生として司法省法学校に学びました。成績優秀によりパリ大学に国費留学をし、帰朝後、司法省で法典の編纂等に当たります。そのかたわら明治法律学校を設立し、法律の教育・普及に尽力し、やがては同校の初代校長として活躍しました。この学校こそが、現在の明治大学です。そして今年で創立123年目を迎えました。

本展示により、鳥取の市民・県民の皆様が郷土の先覚者・岸本辰雄先生を想い、また明治大学関係者が創立者岸本辰雄先生の出身地を再認識し、さらには今後一層の相互交流の契機となれば幸いです。

2004年5月
明治大学史資料センター

※お断り 以下では、人物の敬称は省略しました。

1. 鳥取藩家譜・岸本家（1868・明治元）

岸本辰雄は1851（嘉永4）年に生まれ、幼名を「辰三郎」と称しました。当時の岸本家の家禄は23俵4人扶持の武士です。

2. 岸本辰雄肖像（1894・明治27）

1894（明治27）年に刊行された自著『民法財産取得篇講義』に掲載された肖像です。当時、新進気鋭のフランス流法学者でした。

3. 司法省法学校（明^{みょう}法^{ぽうりょ}寮）在学時の岸本辰雄（明治初期）

1872（明治5）年、岸本は大学南校（現在の東京大学）から司法省に新設された法学校に転入しました。ここで、のちに、ともに明治法律学校を創立する宮城浩蔵、矢代操と出会いました。

4. パリ大学学籍簿（1876・明治9）

岸本は、司法省法学校でボワソナードなどからフランス法学などを学んだ後、選ばれてパリへ留学しました。その期間は1876（明治9）年～1880（同13）年です。

5. 明治法律学校の設立届（1880・明治13）

岸本・宮城・矢代の3名は、無月謝かつ公務の合間に授業をおこなう旨を表明しています。この背景には、法律を学びたいと強く願う学生の要請があり、岸本をはじめとした創立者がその意気に応えた結果でした。

6. 明治大学の設立広告（1880・明治13）

岸本、宮城、矢代の3人の名前で「東京横浜毎日新聞」に掲載された明治法律学校設立の広告です。「同心協力シテ」という文言は、建学の精神ではありませんが、現在もなお明治大学に残る創立者の精神です。

7. 明治法律学校の設立趣旨書（1881・明治14）

明治法律学校を開校する意義を述べています。この史料で注目すべきは、法学を学ぶ意義に「権利自由」と述べている点です。このことばは、明治大学建学の精神のひとつでもあります。

8. 旧島原藩上屋敷時代の明治法律学校（想像図）（1950・昭和25）

設立当初は旧島原藩邸を借用していました。この絵は、第1回卒業生らの座談会をもとに、創立70周年時に制作されたものです。

9. 開学記念碑（1995・平成7）

明治法律学校発祥の場所（東京・有楽町）に、1995（平成7）年に建てられた記念碑です。

10. 学校運営のための借用証書（1882・明治15）

開校当初、明治法律学校は厳しい経営を迫られました。この史料は、岸本も名前を連ねた、^{おさ}長直四郎に宛てた借金の申し込みです。

11. 判事登用試験合格記念写真（1884・明治17）

明治法律学校での教育は非常に厳しいものであったために、司法試験などでは多くの合格者を出しました。この写真は、1884（明治17）年の判事登用試験合格記念ですが、岸本（矢印）のほかに宮城浩蔵や矢代操らも写っています。

12. 「決議録」（1888・明治21）

この校員会は、現在で言えば理事会と教授会を兼ねたようなものでした。つまり、岸本は経営者であり、教育者であったわけです。

13. 文部大臣宛願書（1889・明治22）

当時、最先端の法学講義が展開されていた明治法律学校は、いまだ編纂段階にあった諸法律に関しても、フランス流で講義をおこないたいと願いました。

14. 南甲賀町校舎（明治20年代）

1886（明治19）年12月、明治大学は学生増により、文教の地・神田南甲賀町に移転しました。現在の校舎・リバティタワーの向かいの場所です。

15. 南甲賀町校舎時代の集合写真（1890・明治23）

1890（明治23）年、南甲賀町校舎時代に撮影された写真です。下段中央が岸本です。

16. 駿河台移転によるキャンパス（明治末期）

明治法律学校では、学生数の急増に伴い、1911（明治44）年10月、旧小松宮邸用地を借用しました。現在リバティタワーが建つ場所です。1916（大正5）にはこの場所を買い入れ、以後、明治大学の中心として現在に至っています。

17. 2代目記念館（大正期）

創立30周年でもある1911（明治44）年10月、明治大学に念願の記念館が竣工しましたが、翌年3月の火災で焼失してしまいました。しかし、同12月、岸本校長を中心に再建が進められた結果、写真の記念館が竣工しました。

18. 『商法講義』（1891・明治24）

当然、岸本は法学全般に通じていましたが、その得意とするところは商法でした。

19. 岸本辰雄肖像②（明治後期）

創立者の宮城・矢代を失った岸本は、明治法律学校の教育・経営に専念しました。この写真は、初代校長をしていた岸本の肖像です。

20. 訃報（1912・明治45）

岸本は、1912（明治45）年4月4日午後3時、出勤途中の電車内で倒れました。写真にあるように、岸本の死は大きく報道されました。

21. 墓地（1996・平成8年撮影）

岸本は東京都台東区谷中にある、この墓地で眠っています。

22. 関東大震災復興後の記念館（）

この3代目の記念館は、1998（平成10）年にリバティタワーが建設されるまで長く明治大学の顔として、あるいは東京神田駿河台の名所として君臨しました。

23. 胸像（2001・平成13）

この胸像は、2001（平成13）年に、宮城浩蔵・矢代操の胸像と共に建立されました。リバティタワーの陽だまりの広場に立っており、現在の明治大学を見守っています。

24. 現在の駿河台キャンパス（2004・平成16）

明治大学は、1998（平成10）年オープンのリバティタワーに加え、本年4月にオープンしたアカデミーコモンを中核とした都心型大学として注目されています。校舎は新しくなりましたが、岸本をはじめとした創立者の志は現在に継承されています。

25. 顕彰記念の絵葉書（2003・平成15）

明治大学内には古くから自校の歴史を調査・研究する部署がありましたが、2003（平成15）年4月、その集大成として、国内の大学としてはトップクラスの規模を誇る「大学史資料センター」が設置されました。この絵葉書はそのオープン記念に際し作成したもので、創立者と設立趣旨書を組み合わせています。

【編集・発行】 明治大学史資料センター事務局 明治大学 URL <http://www.meiji.ac.jp/>

〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1 電話 03-3296-4085 FAX 03-3296-4086

【会場】 鳥取市文化センター

〒680-0841 鳥取県鳥取市吉方温泉3-701 電話 0857-27-5181

【印刷】 二葉印刷有限公司